碧南分所だより

2023年 6月号 NO42

水無月を迎えて

分所長 髙木 敏彦

例年より早く梅雨入りを迎え、紫陽花の綺麗な季節となりました。

先月は思いがけない生田あき子さんのご葬儀が皆様のご協力により無事執行できました。ありがとうございます。春の大祭は中止となりましたが、秋の大祭に順延して執り行いたいと思います。よろしくご了解ください。

今月号の分所だよりは、生田吉亮さんのご挨拶を載せさして頂きました。

母 生田あき子の葬儀御礼

生田 吉亮

去る五月十三日早朝に母、あき子の容態が急変し昇天いたしました。碧南分所春季大祭の前日でした。大祭予定の神饌物からお松、祭員、伶人、直会弁当に至るまでを葬祭に変えさせていただきましたこと、誠に申し訳ありませんでした。又葬祭のご承諾とご理解、お手伝いから見送りまで、ありがとうございました。本人も喜んでいることと思います。

母は一昨年の冬から近くのデイサービスに週二日通うことに慣れ始めた昨年の二月一日に脳梗塞を発症して左半身不随と左目が見えない要介護5の体となり、市民病院から小林記念病院へ転院の後、介護医療院の新川中央病院へと我家に戻るような転院となりました。

最初の入院の時からコロナ禍の影響で、面会もできず、様子も分からず病院に任せるしかないもどかしい毎日でした。当の本人は意識もしっかりしていたようで、結婚前の一人暮らしの経験からか家に帰りたいとかも言い出さず淡々と介護を受けながら日々を過ごせたようです。寒い暑いの我家と違って病院は快適だったかもしれません。それでも九十を超えた体の機能低下は進んでいました。最後の面会が亡くなる一週間前の六日で面会の緩和措置でガラス越しでなく直接面会することができました。半分寝ているような様子でしたが呼びかけには聞こえているようでしたので、こちらから自分が新しく勤め始めた事からひ孫の様子、兄弟の様子、庭の世話などと、何よりも次の週末は分所の大祭だから片付けなんかで忙しくしている事を一方的に伝えて終えました。

亡くなる前日に病院から食が通らなくなり点滴で様子を見ているとの連絡が入り、あとひと月ぐらいかな？と思っていた矢先に「急変」の知らせが入り冒頭の顛末でした。妻と駆け着ける少し前に呼吸が止まりました。との医師からの報告でした。苦しんだ様子もなく穏やかな顔で永眠させてもらえたようです。

我家での葬祭は、式次第を省略する事無く伶人も3名と例のない仕立でまた多くの方の参列をいただいて送り出すことができました。また、斎苑までは母の生家の地を経由してもらえた事、家祭の頃には天候も含め神様の大きなご加護のもとに進んでいるなと感じていました。

ただ、最後の面会の時に伝えたことを母が理解して、神様にお願いして昇天させてもらうようにしたと考えると**「天晴礼」**の一言に尽きる宣伝使の幕引きだったと感心させられます。事前に用意してあった遺影が吹き出しそうな笑みを浮かべて居るのを見ると嬉しいやら、悲しいやらです。送り出した自分自身は日常の中で気を抜くと腑抜けになることしばしばです。まだ母は中有界半ば、行先の定まる五十日まで最後の親孝行を努めたいと思っています。

亡母に代わり**「皆さまどうもありがとうございました」**

見送りの 日は早過ぎ去りて 忙しき 常の生活に 空し風吹く

生田 拝

主な行事予定

6月11日(日) 午後1時半より
碧南分所月次祭 担当第1班

6月18日(日) 午前10時より
三河本苑月次祭 担当第2ブロック

7月1日(土) 午前10時半より
生田あき子毘女50日祭

7月9日(日) 午後1時半より
碧南分所月次祭 担当第2班

7月15日(土)
新生姜の佃煮作り 直心会

7月16日(日) 午前10時より
三河本苑月次祭

7月23日(日)
少年夏季学級

7月30日(日)
万祥殿献労 誠心会

6月の誕生者 おめでとうございます！

小笠原 繁 藤浦 佳仁 1日 生田 亮紀 3日
奥谷 克弥 8日 久野 美恵子 11日 村松 凪恵 16日 片岡 健 奥谷 中庸 18日 三浦鳳介 27日